

平成 29 年度事業活動報告書 及び平成 30 年度事業計画



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN

特定非営利活動法人
海外に子ども用車椅子を送る会

URL: www.kaigaiKurumaisu.org

平成 29 年度事業報告

1. 車椅子収集事業

子ども達の体に合わなくなり使われなくなった車椅子は、首都圏の肢体不自由児の特別支援学校や養育施設などの PTA の方々や自立支援活動部の先生方の協力をいただき、**25の学校・養育センター**から530台の提供を受けました。個人からの持ち込みを加えると631台になりました。特に本年度は全般的に特別支援学校からの提供が少なく、個人持込みや病院からの提供が増えました。

都県別年度別の学校数と収集実績は次の通りです。

首都圏肢体不自由児特別支援学校からの収集台数

都・県 (学校数)	2013 年(学校数)		2014年(学校数)		2015年(学校数)		2016年(学校数)		2017年(学校数)	
東 京 (22)	288 台	(12)	284 台	(13)	214 台	(11)	229 台	(12)	136台	(7)
神奈川 (15)	145 台	(8)	162 台	(10)	114 台	(6)	170 台	(9)	245台	(12)
埼 玉 (9)	143 台	(4)	183 台	(6)	147 台	(5)	163 台	(7)	102台	(5)
千 葉 (6)	75 台	(2)	76 台	(3)	26 台	(1)	132 台	(5)	47台	(1)
合 計 (52)	651台	(26)	705 台	(32)	501 台	(23)	694 台	(33)	530台	(25)

多くの学校の PTA が年中行事として会員から車椅子を収集する活動が定着し、2017 年は全体のほぼ半数の学校から車椅子を提供していただきました。



今年は養育センターや病院などからの提供が増えました

しかしながら、全体としての車椅子の集まりは、昨年から減少傾向にあります。多くの国の子どもたちが車椅子を待っています。皆様からの更なる車椅子の提供をお願いします。
(提供方法は当会のホームページをご覧ください) <http://kaigaikurumaisu.org/>)

2. 車椅子の整備事業

車椅子の整備は、多くのボランティアの参加を得て毎月の車椅子整備例会で行われています。例会の参加者は、大学生や高校生、当会を支援してくれている企業の社員、そして在日のベトナム人、エチオピア人、ネパール人の方たちです。その数は、昨年より10%増えて毎月平均45名、年間延べ540名となりました。そうした人たちのお蔭で、年間500台の車椅子の洗浄、修理整備、梱包作業をすることができました。



相模女子大 海外に子ども用車椅子を届けようプロジェクト



在日ベトナム人の若い方々の社会貢献と母国に対する支援活動の姿に感動



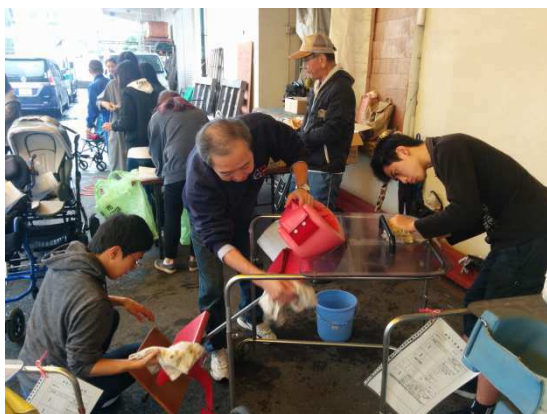
多くの若者が参加し、仲間が生まれ、交流が広まる



エチオピア人グループ



ネパールの仲間たちと



多摩工業高校生



昭島中央ロータリークラブ



日興アセットマネジメント株式会社



株式会社商船三井

3. 車椅子発送事業



車椅子は丁寧に梱包されて、コンテナに積み込んで船便で各国へ発送しています。

2017 年度寄贈実績 （* 外務省 NGO 連携無償資金協力支援事業）

フィリピン	2017年 6月	69 台	JVR 福祉事業財団
ネパール	8月	95 台	CBRS 障害者支援団体
ベトナム *	8月	170 台	ベトナム赤十字
フィリピン	10月	84 台	JVR 福祉事業財団
ミャンマー	11月	95 台	国立リハビリ病院・ヤンゴン子ども病院
パラグアイ	2018年 2月	80 台	障害者施設
インドネシア*	3月	160 台	CBR-DT 障害児支援団体
エチオピア*	3月	90 台	チェシヤ障害者支援財団

合計 843台（計画比 122% 昨年比 107%）

2004 年に活動を始めてから累計で 23 カ国へ6911台となりました。



ネパールでの引渡



ベトナムの贈呈式



タイでの贈呈式



ミャンマーでの贈呈式

当会は車椅子が現地に届いた後、受入団体と贈呈式を行い、適合する子どもに車椅子を貸与し、子ども用車椅子の使い方や修理の方法などを指導しています。そのあと各家庭を訪問し、活用状況の確認を行うことでプロジェクトの検証と評価を実施しています。

贈呈式や現地訪問の様子など詳しくは当会ホームページや「活動レポート」を参照ください。

4. 活動広報事業

私共の海外での活動に加えて、現地の様子や海外の受入団体と子ども達の感謝の気持ちを具体的に支援者の方々にお伝えするために、「活動報告レポート」を年4回発行しています。

さらにホームページで日本での活動をはじめ海外での事業の内容を、タイムリーに広報するよう努めていますので、随時ご参照ください。 <http://www.kaigaikurumaisu.org>
これまでの事業を総括して当会事業紹介を紹介する冊子「世界の子どもたちに動ける自由と喜びを」を発行しましたが、ホームページにも掲載しました。

5. 当会の財務状況

当会が運送業者のトラックを手配して車椅子を特別支援学校から収集し、整備をして、海外へコンテナで送る国内及び海外輸送にかかる費用などを計算すると、届ける国への距離にもよりますが、1台平均約1万円です。それらの費用は当会の活動に賛同いただく会員の会費と支援者(個人及び団体)の寄付金それに民間助成や公的助成の支援資金で賄っています。

別表の収支報告書の通り、平成29年度は個人・企業からの寄付金や公的助成金をいただくことができ、843台の寄贈の費用を賄うことが出来ました。当会がこれからも活動を継続していくためには、安定した車椅子の収集と資金の確保が課題です。

どうか引き続きご支援ご協力をくださいますよう、心からお願い申し上げます。

平成28-29年度収支実績と平成30年度収支予算表

(単位 円)

		平成28年度 収支実績	平成29年度 収支実績	平成30年度 収支計画
前年度繰越金		5,816,023	8,384,895	10,273,304
収入の部				
会費収入		365,000	341,000	350,000
公的助成金収入		6,703,327	8,264,060	0
民間助成金収入		5,125,676	5,151,136	3,950,000
寄付金収入		2,067,299	2,636,512	2,500,000
利息収入		40	41	50
雑収入		0	23,895	0
当年収入額		14,261,342	16,416,644	6,800,050
支出の部				
1. 事業費				
車椅子収集事業費		1,187,066	903,279	950,000
車椅子整備事業費		3,082,016	4,593,704	3,000,000
車椅子発送事業費		6,486,658	8,157,259	4,800,000
活動広報事業費		527,726	259,247	400,000
事業費合計		11,283,466	13,913,489	9,150,000
2. 管理費				
事務消耗品費		26,949	15,160	30,000
消耗品費		31,892	58,658	40,000
水道光熱費		0	0	0
旅費交通費		44,734	23,896	20,000
支払手数料		22,804	23,938	20,000
交際費		14,420	53,545	30,000
支払保険料 (ホランテア保険)		0	108,136	108,136
通信費		103,573	120,960	100,000
複写費		11,304	51,748	30,000
会議費		130,393	141,666	120,000
諸会費		0	0	0
雑費		22,935	17,039	20,000
管理費合計		409,004	614,746	518,136
総支出額		11,692,470	14,528,235	9,668,136
次期繰越金		8,384,895	10,273,304	7,405,218

平成 30 年(2018 年)度事業活動計画書

NPO 海外に子ども用車椅子を送る会

1. 車椅子収集事業

首都圏特別支援学校 PTA の定期的かつ継続的な収集協力を得て、必要数を確保する。

2. 車椅子整備事業

- ・例会参加者による確実な整備の実施
- ・青少年自立援助センターの安定的整備とドリームファクトリーとの連携

3. 車椅子発送事業

エチオピア	2018 年	5 月	90 台	アジスアベバ・チェシャ財団
ネパール		6 月	90 台	CBRS
タイ		8 月	80 台	タイ身体障害者協会
インド		10 月	90 台	Jan Vikas Samiti (JVS)
ラオス	2019 年	1 月	90 台	ラオス障害児協会 (ACDA)
フィリピン		3 月	90 台	JVR 福祉事業財団

合計 670 台

4. 活動広報事業

- ・「活動レポート」の発行(年間 4 回)
タイムリーな当会の海外での活動報告
- ・当会ホームページの充実

5. 活動資金確保活動

- ・広報活動の拡充による会員数の増加を図る
- ・民間助成、地域慈善団体等への申請により寄付金確保の増加を目指す

6. 「にほんのおともだち、くるまいすありがとう」(子ども画集の発行)

海外の仲間から感謝の気持ちを表した絵が 250 枚届いている。それらを使って展覧会の開催や、画集の作成をおこなう。また、ホームページにも掲載する。



NPO法人
海外に子ども用車椅子を送る会

贈呈実績 23ヶ国 6,911台 (2018年3月現在)

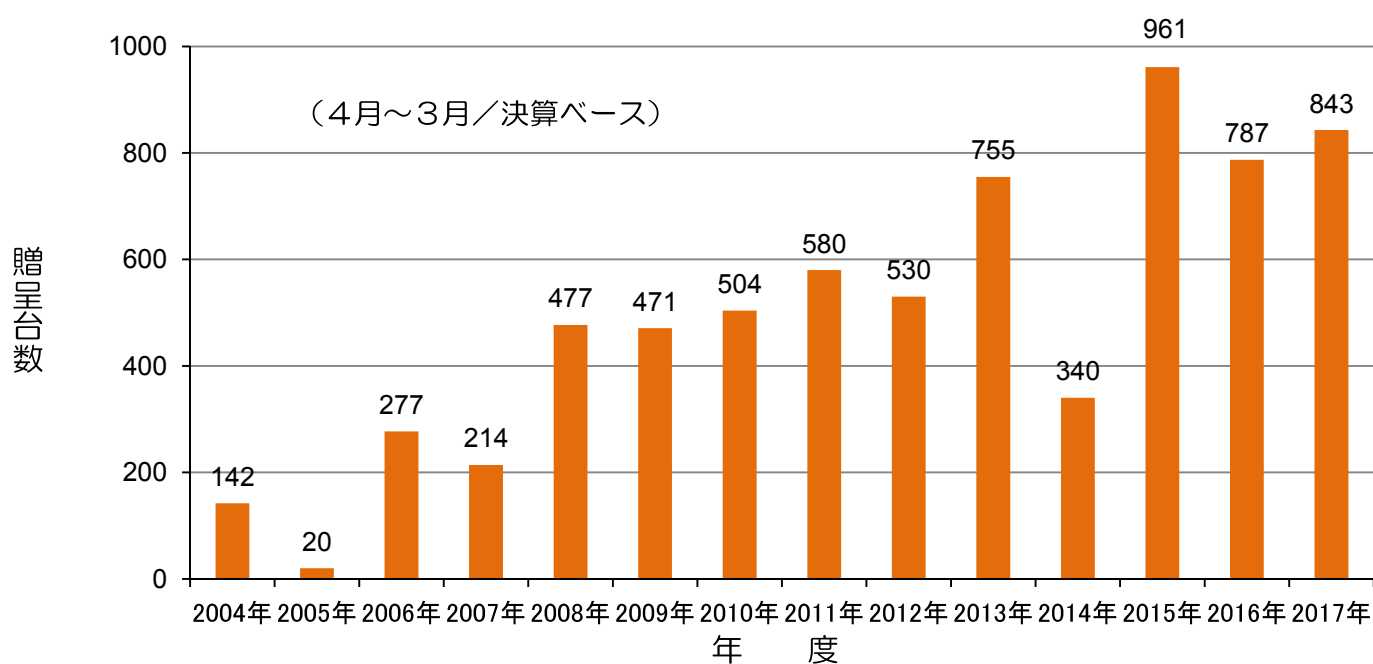
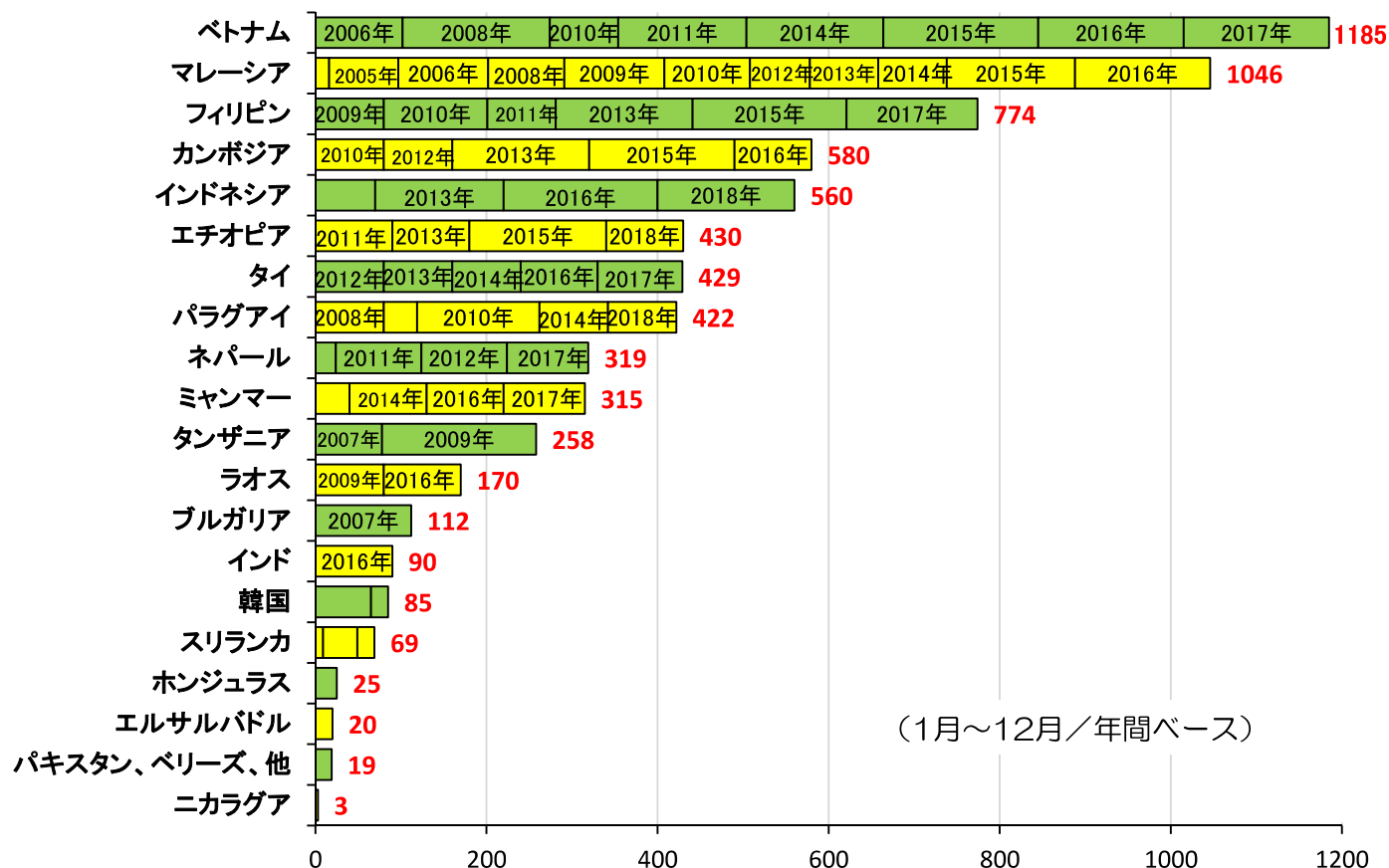
当会について

贈呈実績

支援のお願い

例会活動

支援団体・企業等



— メモ —

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2017年4月 第14号



カンボジア

カンボジアの 恵まれない子ども達へ

2017年3月90台



これまでに継続的にボランティア活動に参加している相模女子大の学生11名が会の理事と一緒にカンボジアでの贈呈式に参加し、車椅子を引き渡した施設や子ども達を訪問し、現地での障害児の実情を見聞しました。



贈呈式には社会福祉省大臣をはじめ日本大使館参事官、JICA幹部や障害支援局をはじめリハビリセンターや障害児施設の責任者と障害児とその家族など150名が参加しました。その様子はテレビでも放映されました。



贈呈式後、プノンペンとシェムリアップの合計5か所の施設・学校を訪問し、障害を持つ子ども達の実態を眼にし、子ども達と大学生が触れ合う機会を持ちました。続いて、前回車椅子を受け取った5人の子どもの家族を訪ね、車椅子が子ども達と家族にとってかけがえのない存在として、有効にかつ大切に使用されていることを確認しました。

各施設・学校の責任者の人達からは「特に都市部から離れた地域では車椅子が必要」とプロジェクトの継続を要望されました。

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2017年7月 第15号



ラオス

ラオスの子どもたちへ

2017年2月90台



ラオスの障害児支援協会 (ACDA) へ90台の車椅子の贈呈式をビエンチャン市内の社会福祉省の交流センターの会議室において開催しました。当日は、社会福祉省や関係省庁幹部、日本大使館からも出席していただき、車椅子を受け取る子どもとその家族など約65名が参加して盛大に行われました。



ソンフェット会長の挨拶



当会への感謝状を受取る



生まれて初めて車椅子に乗る子ども達



贈呈式後、ワークショップを開催し、車椅子の調整方法と簡単な整備について説明、使用した工具を会のスタッフに贈呈しました。

子ども達の家庭を訪問し、車椅子を大切にそしてきれいに使ってほしいとお願いしました。



初めての車椅子で戸惑う。
貧しい家庭で両親は仕事で
不在だった。



高床式の家の下で
車椅子の使い方を母親に説明
するACDAのスタッフ。



段差があるので、
スロープをつくりたいと父親。



車椅子を動かしてみる
母親と不安そうな子ども。

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート

2017年10月 第16号



ベトナム

ベトナム戦争の枯葉剤による 障害児が多い北部地区の子どもたちへ

2017年9月 170台



2017年9月27日ベトナム北部のフート省ベトリ市で赤十字本部の幹部や支部の幹部スタッフ、障害児の保護者などが参加して引渡式を行いました。

(外務省 日本NGO連携無償資金協力事業)



ベトナム赤十字の責任者は「今でもベトナム戦争での枯葉剤の後遺症の障害児が多く何世代にも遺伝するので、車椅子は全く不足している」と継続的に車椅子を送ってほしいと要望されました。当会は車椅子を大切に有効に使ってほしいこと、さらに当会活動の様子や車椅子の維持管理についてベトナム語のマニュアルで説明しました。



赤十字のスタッフと障害児の家庭に届ける。待ちわびていた家族に笑顔が生まれる。



日本からの車椅子でこれから家族の生活が変わる。家族の介護の負担も減る。子どもは近所の友たちと戸外で遊べる。

当会の詳しい活動内容はHPで <http://kaigaikurumaisu.org>

N P O 法 人

海外に 子ども用 車椅子を 送る会



活動
レポート
2018年1月 第17号



ネパール

ポカラ市周辺の子どもたちへ 2017年12月 95台

2013年に続き現地社会福祉団体CBRSポカラとの共同活動で子どもたちに車椅子を届けました。街では支援を受けながら代書屋さん、電話修理ショップなどで自立をめざす青年から声をかけてもらう場面もあり、温かい感謝メッセージを受け取りました。ネパールへは3度目、累計300台を超えましたが、ポカラ地区でさえも、つぎの贈呈が望まれています。



車椅子はインド・コルカタ港経由でポカラ市へ、いろいろなトラブルに遭遇しましたが11月末、やっと到着です。コンテナはトラック車台からはみ出していますが、落下もなく無事開梱の運びとなりました。スタッフワークショップで乗降時、段差上げ下げなどの使用注意点、虫ゴム交換、空気入れ点検などの説明を行い、安全、快適に使用してもらうよう説明を行いました。



CBRSポカラ事務所のトレーニングルームでの引渡式では子どもたちが私たちへのお土産に絵を描いてくれました。まだまだ交通手段は十分でなく山を越えたWaling市や村でも出張？引渡式が行われています。今回の現地活動には日頃からご支援をいただいている昭島中央ロータリークラブからも参加いただきました。

2018年も車椅子を待つ子どもたちへのご支援、ご協力をよろしくお願いします。



ポカラ市から見た夜明けに輝くヒマラヤ連峰。山々には神々がやどるといわれ、天・風・火・水・地をあらわす5色の小旗タルチョがいたる所で見受けられました。

今回のプロジェクトは(財)日本国際協力システムJICSからの助成を一部受けました。



当会の詳しい活動内容はHPで <http://kaigaikurumaisu.org>



The Volunteers Group
to Send Wheelchairs
to Overseas Children
JAPAN